

2020年1月15日

## **HOBIA NEWS No.361**

### 目次

- HOBIA 理事長 2020年新年ご挨拶
- HOBIA 冬期例会 開催のご案内
- JBA 全国バイオ団体会議報告

### ● HOBIA 理事長 2020年新年ご挨拶

皆様、明けましておめでとうございます。今年2020年は、オリンピック・パラリンピックがわが国で開催される年です。着々と準備が進んでいる様ですが、その中で、マラソン、競歩の会場が札幌に変更になると言う出来事がありました。前回1964年の東京オリンピックの時には、特に問題にならなかった東京の高温多湿が問題視された形です。開催月の違いや、ヒートアイランド現象の影響など一概に比較できないとしても、日本の平均気温が少しずつ高くなっていることを感じさせる出来事でした。

また、昨年の台風や豪雨災害の時に“記録的”、“観測史上一位”と言った表現が使われ、実際に各地で甚大な被害が発生したことも記憶に新しいところです。世界的な規模でも、6月末のヨーロッパを襲った熱波やカリブ海での超大型ハリケーンの発生など、地球規模での温暖化の影響は深刻になりつつある様に見えます。一方、昨年12月に開催された気候変動への国際的対応について話し合う気候変動枠組条約第25回締約国会議(COP25)は、各国が温室効果ガス排出量を低下する具体的な取組について、合意ができたとは言えない結果になってしまいました。

このような環境問題の深刻化に加え、アジア・アフリカにおける急激な人口増加と経済成長による食料供給不足に対する懸念や、所謂“経済先進国”における高齢化に伴う生活習慣病の増加、医薬品需要の増加など、地球規模の多くの問題があり、現在、人類は一つの転換点に立っている様な気がします。

これらの問題を解決する手段の一つとして科学技術は重大な責任を担っています。昨年、リチウムイオン電池の開発でノーベル化学賞を受賞した旭化成名誉フェロー吉野彰さんに対し、スウェーデン王立科学アカデミーが述べた懸賞理由は、「化石燃料に頼らない社会の実現可能性を高めた」と言うもので、環境問題解決に対する科学技術開発への期待が明確に示されています。

バイオテクノロジーは、カーボンニュートラル(二酸化炭素の排出と吸収がプラスマイナスゼロであること)と言われるバイオマス利活用技術、環境調和性の高い生分解性プラスチック、気候変動に強く、生産性の高い新たな作物の育種など、大きな可能性を持っています。

また、北海道に対しては、わが国において最も重要な食糧生産地であると言う現状に加えて、フランスのブルゴーニュ地方の名門ワイナリーの函館進出に見られる様に、気候変動に対応するための将来の新たな農業生産地としての注目も集まっております。当協会は、アグリバイオ研究部会、バイオマス研究部会等の部会活動や地域バイオ育成事業を介して、北海道の皆様と協力して上記課題の解決に取り組み、バイオテクノロジーを活用した北海道の産業振興のお役に立つことが出来ることを切に希望しております。

最後になりますが、皆様にとっても、新しい年が更に良い年となるよう祈念いたしまして新年の挨拶とさせていただきます。

特定非営利活動法人北海道バイオ産業振興協会  
理事長 北野邦尋

## ● HOBIA 冬期例会 開催のご案内

- 日 時：令和2年2月5日（水）14:00～17:10
- 場 所：北海道大学 学術交流会館 小講堂
- 参加費：無料

### <プログラム>

14:00 開会挨拶 HOBIA 理事長 北野邦尋

14:05～15:30

#### 【講演1】『バイオ戦略2019』の策定について

内閣府 政策統括官（科学技術・イノベーション担当）  
参事官補佐 服部 正氏

15:30～15:40 休憩

15:40～17:10

#### 【講演2】『精密農業と大豆の高付加価値化』

株式会社イソップアグリシステム システムサプライ  
代表取締役社長 門脇 武一氏

#### <講演要旨>

農業生産現場の生産性向上や環境負荷軽減など農業が扱う情報をテクノロジーとしてシステム化する精密農業。精密農業は農業と情報の融合を図るものであり、他産業との連携を通して新しい枠組を形成、価値創造を容易にする。

圃場から口に入るまでを「生活文化提案型のモノづくり」と捉え、大豆をミクロン単位に微粉碎、大豆の加工特性を向上させ健康に関わるエビデンスとともにバリューチェーンの構築を図る仕組みづくりを紹介する。

---

17:30～19:00 情報交流会（参加費 4,000円）

会 場：札幌アスペンホテル 2階エルム

（札幌市北区北8条西4丁目 TEL 011-700-2111）

---

※ 参加お申込は、HOBIA web サイト「[メールお問い合わせフォーム](#)」から『お名前・ご所属・お役職 と 講演会・情報交流会 への参加』についてご入力、送信をお願い申し上げます。

## ● JBA 全国バイオ団体会議報告

### 【JBA 全国バイオ関係者会議幹事会】

毎年新年に開かれる全国バイオ関係者会議幹事会が本年は 1 月 9 日に（一財）バイオインダストリー協会（東京八丁堀）で開催された。北海道から沖縄まで JBA 会議室にぎっしりの参加者で 2 時間の会議が速いテンポで発表質疑応答が進められた。北海道からは、HOBIA、ノーステックそしてバイオ工業会が参加した。

### 各省庁からの施策や展望について次々発表された。

内閣府 政策統括官（科学技術・イノベーション担当）付企画官 森幸子氏、「バイオ戦略 2019 の進捗について」

大きなグランドデザインを設定して、これから具体的内容を詰めて行く段階で、4 つの枠組み、①持続可能な循環型社会、②バイオ×デジタルの融合を進め 2030 年には世界最先端のバイオエコノミー社会の実現を目指して内外から若手研究者そして民間投資を呼び込む、③生物をデザインして利用する、④オープンイノベーションを進める拠点を国際バイオコミュニティ拠点を 2 地域程度作って促進する、⑤ネットワーク化して進めて行く。これから中身を入れて行き毎年更新して施策を進めて行く。

バイオ戦略 2019 で設定する社会像・市場領域は、高機能バイオ素材（軽量性、耐久性、安全性）【経産省】、バイオプラスチック（汎用プラスチック代替）【経産省】、持続的・一次生産システム、有機廃棄物・有機排水処理【経産省】、生活改善ヘルスケア、機能的食品、デジタルヘルス【経産省】、バイオ医薬品・再生医療・細胞治療・遺伝子治療関連産業【内閣官房健康・医療戦略室】、バイオ生産システム、バイオ関連分析・測定・実験システム【経産省】、木材活用大型建築、スマート林業【林野庁】などバイオの広範囲にわたる領域を関連する省庁で施策を進めて行く。

経済産業省 商務情報政策局 商務・サービスグループ 生物化学産業課長 田中 哲也 氏「バイオベンチャー振興に向けた経産省の取組」

バイオの発展の上でベンチャーの果たす役割は大きいと認識しているが、バイオベンチャーの現実は早い時期に売り上げが立てられず大きな赤字を抱えながらの経営をしているところがほとんどだ。潜在的にイノベーションを創出できる将来性のある企業がいかに安定的にリスクマネーを調達できるかが課題だ。

#### 投資家を増やす

上場しても赤字が続くと上場廃止になるので東証に基準をアメリカ並みに緩めてもらうように交渉を進めている。具体的には、JASDAQ では 5 期連続赤字かつ営業益が損失で、上場廃止になる。マザーズ売上高基準も 1 億円未満でも上場廃止になる。質の高い非財務情報による評価あるいは開示も検討している。これらの緩和によって上場を維持してマーケットからの資金流入を維持しようという狙い。

厚生労働省医政局 経済課ベンチャー等支援戦略室室長田中大平氏「厚生労働省における医療系ベンチャー支援」

バイオベンチャーを支援する方策として相談室（MEDISO）を日本橋に開いて技術および法制度の他、マーケティング、事業計画など多分野の専門家によるサポートを行っている。地域の方には、地域での相談会を開いたりポータルサイトも用意している。現状は医療機器分野の相談が一番多く次に医薬品となっている。

この発表に対して、坂田会長からの質問として、専門家の姿勢と省の姿勢が大切で、既存の技

術に精通していても今後出てくる新技術に対応できるように心がけているか？新技術に対応した規制緩和の姿勢を持っているか？など未知の新技術に関する対応について鋭い意見が投げかけられた。

#### 環境省 地球環境局地球温暖化対策課地球温暖化対策事業室長 相澤寛史氏「環境×バイオ ～環境政策の動向～」

頻発する異常気象からも気候変動の要因になる温室ガスの排出削減対策を進める。CO<sub>2</sub>回収技術実証を東芝エネルギーシステムズ(株)が代表企業となって福岡県で行っている。始動は2020年予定。CO<sub>2</sub>を原料としたメタンやエタノール生産、あるいはバイオプラスチック採用による海洋汚染の防止技術などを進めている。

#### **海外との共同そして競争**

##### JBA 国際活動

米国、欧州で調査を行った。ICBA (International Council of Biotech Associations) では、総合協力に関する面談を行った(フィラデルフィア)。リトアニアは、レーザー機器やライフサイ

エンスに強み、デンマークとスウェーデン合わせたのクラスター形成、英国ではロンドン、ケンブリッジなどのクラスターを JBA メンバーの医薬会社とともに調査した。さらにドイツのバイオテクノロジー・イノベーション・クラスターも JBA メンバーとともに交流を行った。

国内各地での海外交流も盛んになってきており、とくに神奈川(川崎、横浜)、大阪、神戸において相互セミナー開催やマッチングなど海外企業、クラスターとの交流を深めている。

JBA 塚本事務局長からは、海外と競争して勝つという意識と戦略を持ってほしいと叱咤激励も頂いた。

神戸からは、医薬会社(バイエル、塩野義、第一三共、武田)が中心となって、バイオベンチャー20社、大学の研究者、病院の臨床医など川上から臨床現場までの専門家を一堂に集めて、まる1日かけて新規の医療、医薬開発を行う検討会を行った。それぞれ違うポジションの専門家が集まって、具体的な4種類の開発を想定したプランを作ってみるとそれぞれの専門家が新しい気づきがあったのと開発への具体的な流れが把握できて、異なった分野で話がかみ合うようになってきた。と大きな手応えのあるトレーニングだった。各地でもこのような取り組みをされると良いのではと、提言があった。

HOBIA 企画運営委員長  
浅野行蔵

**HOBIAのホームページ** <http://www.hobia.jp>

NPO法人 北海道バイオ産業振興協会  
札幌市北区北21条西12丁目コラボほっかいどう内